

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岡崎警察署庁舎	階数	地上5F
建設地	(仮換地)岡崎駅南土地区画整理事業	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、法22条区域	平均居住人員	281人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2021年11月11日
敷地面積	8,500 m ²	作成者	岩月 亮士
建築面積	1,839 m ²	確認日	2021年11月11日
延床面積	7,582 m ²	確認者	鈴木 雄一郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	84%
③上記+②以外の	84%
④上記+	84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.3**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>10.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>県産木材 (外部庇軒裏)</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>県産木材 (内部天井ルーバー)</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数			
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境													3.0
1 音環境													3.0
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													0.4
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													3.0
2 温熱環境													2.4
2.1 室温制御													0.3
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													3.4
3.1 昼光利用													0.3
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													0.3
1 昼光制御													5.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気質環境													3.7
4.1 発生源対策													0.5
1 化学汚染物質													3.0
4.2 換気													0.3
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													0.2
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
Q2 サービス性能													3.5
1 機能性													3.0
1.1 機能性・使いやすさ													0.4
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													0.3
1 広さ感・景観(天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													0.3
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振													0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													0.3
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													4.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													0.1
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高: 4.15m	-	5.0	0.60		4.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率: 0.14	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性		配管保護されており、仕上材を傷めず配線の更新が可能	3.0	5.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性		配管保護されており、仕上材を傷めず配線の更新が可能	3.0	5.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	庇に県産材木材を使用		5.0	0.40		-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30		-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	岡崎城や八丁蔵通り、藤川宿などの色彩(無彩色系)を踏襲		4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.88	3.0	4.2	0.30		-	-	4.2
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.76	3.0	3.4	0.30		-	-	3.4
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具、擬音装置を採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63		-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル系床材(共用部床)、磁器質タイル(床・壁)	3.0	4.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	スケルトンインフィルを採用	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1	消火剤				-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①			3.6	0.33		-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	余裕のある駐車場及び来庁舎と職員の動線分離		5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自			3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自			-	-		-	-	
3	悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明における光害対策を適正に行っている。		4.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	4.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:10.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				4.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産木材(外部庇軒裏)
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	県産木材(内部天井ルーバー)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ①大規模災害でも警察機能を維持継続し、地域の安全を守る防災機能拠点となる警察署 ②将来を見据え警察機能をノンストップで支え続ける、フレキシブルな新モデル警察署 ③岡崎の安全安心の絶対的な象徴として、敷地内のあらゆる人・物・情報を確実に守る警察署
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・各諸室のグレードに応じて適切な仕上の採用 ・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスしやすいバルコニー・屋上設備スペース ・重要度係数I=1.5 ・熱源に電気／ガスを採用、重要室は非常用発電機により災害時対応 ・緊急用汚水槽設置 ・受変電設備・自家発電機を屋上に設置、通信関係室を5階に設置
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・段・傾斜路が無く、滑りにくく平坦な表面仕上 ・エントランスに大きな庇を計画
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・深い軒の出を用いた日射制御 ・開口部に複層ガラスの採用 ・高効率機器の採用 ・節水型衛生器具、擬音装置の採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・躯体と内装仕上げの分離が容易、OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な駐車場 ・敷地外への騒音・振動の配慮
その他	特になし